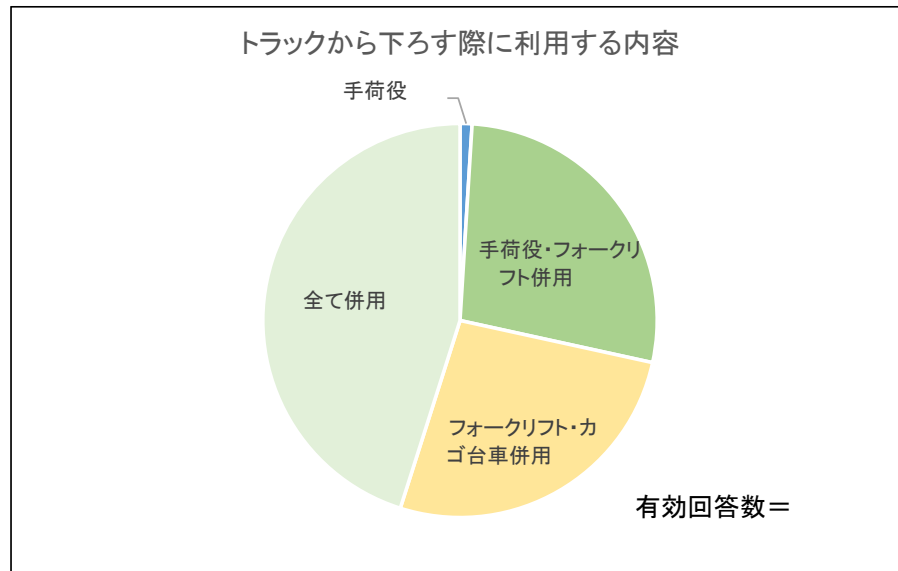


トを使用して作業を行う) が荷の受け入れや搬出のために荷を運び、パレット積みではなくベタ積みで輸送が必要な場合にはドライバーが手荷役でトラック内部の作業を行う。

図 3-4-⑧



⑨ 荷を積み下ろしする際のトラックについて

【トラックの大きさ】

消費地市場に入荷したトラックの大きさは平均的には 2 t ~ 6 t が多い。市場別にみると福岡市場では 2 ~ 4 t、長野市場 4 ~ 5 t、大阪市場 4 ~ 5 t、豊洲 5 ~ 6 t 及び 10 t でウイング車となっている。

【混載】

混載の状況について聞き取りをしたところ以下の回答であった。

- ・ 運賃を安くするために混載を依頼する場合もある。
- ・ 地方の生産地から豊洲に搬入し、帰りの便は水産物や青果物等混載も多い。
- ・ 混載を行っているトラックは多い。

3-5 調査結果からの現状・問題点

【量販店への出荷】

- ・ 仲卸から量販店への出荷は小ロットが多く、スピード感と配送などで融通を効かせないとニーズに応えられない。
- ・ 市場によっては、加工品の量販店への配送は事前に市場のデリバリー担当者が店舗ごとに荷を分けし、かご台車へ分類わけしドライバーがトラックに詰め込みを行う。
- ・ 水産物の種類によっては店舗別に配送を要求する量販店もあり、その荷物の振り分けは、配送を請け負っているドライバーが主に行っているが、そのためのバックアップ体制を構築する必要がある。
- ・ 生産地から量販店に荷物が直送されるケースもある。
- ・ 加工品の製造を行っている産地卸業者は量販店の注文に応じて加工品を生産し、注文に応じた荷姿で発送している。
- ・ 量販店によっては、鮮魚の場合は各店への直接配送するように求めてくるので、台車を 2~4 t トラックに積み込み、トラック内で個別店別にバラ積みしそれぞれの店舗に納品する。
- ・ 県内及び周辺地区内の量販店向けの納品は、ラップで荷姿を包むことなく配送できる。
- ・ 現状の傾向として量販店から小口での納品の要望が増加しており、多品種少量納品となっている。
- ・ 卸売市場から量販店への配送先は、配送センター 8 割、個別店配送 2 割であり、量販店所有の配送センターは大手であり、他の量販店は外部の配送センターを利用している。

【ドライバーの作業時間・労働改善】

- ・ 量販店が要求する時間帯に合わせるために、産地から夜中の 12 時頃に卸売市場に到着した荷物をかご台車に配置して早い時には 2 時ごろから市場を出発して配送先に向かう。
- ・ 卸売市場で早朝 4 時ごろには各店舗に必要な荷物の配送準備、積込みを始める。開店前の量販店 4~5 店舗を配送のため巡回し荷を下してから自社に戻るまでに約 6 時間程度要する。
- ・ ドライバーは配送のための商品の振り分け時間が必要で、そのための準備が長引けば輸送の迅速性に欠け、ひいては給料に影響してくる。

- ・ パレットに荷物を積むのではなくバラ積みを選択するのは、トラックに商品が多く詰めて配送コストを安く抑えることができるため。4~5 店舗に納品する場合、パレット積みでは荷の数が限られてくるのでトラック 5 台は必要になるが、バラ積みでは 4 台で配送できる。荷物を 1 台大型トラックに積むにはトラックの費用が負担になる。
- ・ 豊洲は 24 時間開いているので過去と比べれば渋滞が緩和され、ドライバーにはやりやすくなった。
- ・ 豊洲ではドライバーと豊洲物流のスタッフが荷下ろしをし、小揚げ（場内整理作業運搬者）がフォークリフトで場内に運ぶ。
- ・ 卸売市場内に毎日来ていたトラックも今は 1 日置きになっているのは運送会社の労働改善による。

【混載】

- ・ トラックは産地市場で商品の積み込み時に、混載する荷物の割り振りや積み込む順序など設定する必要があり面倒な面がある。
- ・ 混載は、比較的規模の大きい特定の運送会社が主にまとめて混載を行っており、配送順序等を荷主の要望に合わせてと配送コスト高になる。
- ・ トラックで鮮魚を納品した後、帰り便に野菜を積むと魚の臭気などが野菜に残るので敬遠される。
- ・ 関東は荷物を降ろす市場が何カ所もあるので、豊洲を経由して 3-4 カ所程度他の市場を回ってから戻る。その際に帰り荷を混載しながら積んでいくので空で帰るのは少ない。
- ・ 豊洲の利点は、関東周辺地区の市場へ転送するために荷を下せるところである。

【荷姿・梱包】

- ・ 以前、魚種によってはブルーの発泡スチロール箱を使用して、鮮魚が美味に見える工夫をしていた。現在の発泡スチロールは魚をブルーのシートで包みスチロール箱に入れている。
- ・ 発泡スチロールの保冷性能は高いが箱代のコストがかかる
- ・ 空輸便は木製の箱は使えないので段ボールに氷を詰めて配送される。
- ・ 保冷性の優れた発泡スチロールの普及で水産物の鮮度が向上した。
- ・ 出荷の荷姿（主に段ボール箱による加工品詰めが多い）は PP バンドで 2 個か 3

個を1個口にして運賃コストを抑えている。

- ・ フォークリフトでトラックの内部まで持ってきてから、積みあがった段ボールの上部の空きスペースを見ながら手荷役で段ボールを積み込んでいる。

【パレット】

- ・ パレットは衛生環境保持などから木製パレットは使用頻度が少なくなってきたおり主に場内での使用が多くなっている。
- ・ 東京都の補助もあり豊洲では水産業者 5 社で会社別の色が付いたプラスチックパレットを作成した。
- ・ トラックに利用されるパレットは1100×1100 サイズが二枚でちょうど収まるので利用されるが、1200×1100 サイズのパレットはトラックに積み込む時に収まりが悪い。
- ・ 自社が保有しているパレット(1200×1100)は施設内の移動に使用しており、配送用などトラック内部に収まる正方形パレット(1100×1100)は主にドライバーが用意している。
- ・ 積み下ろしの後のトラックが空便にならないように空きパレットは出来るだけトラックに詰め込んで持ち帰るようにしている。

【市場内業務】

- ・ 卸売業者間で場内の荷下ろし場所が公平に利用されるために荷下ろし場所は6か月毎に変える。
- ・ 商品のオーダーは前日に行うのが基本であるが、緊急の場合は当日の配送を依頼する着荷主もある。やむを得ず引き受ける場合はドライバーに無理を言い配送を依頼する。
- ・ 輸入品を冷凍庫施設へ移すときなどは、ドライバーに代わって当該施設の作業許可を持っている冷凍施設社員が積み下ろしする。
- ・ 卸売市場から量販店の配送センターへ一括納品する場合、各店舗への区分け作業費は卸売市場(卸売業者又は仲卸業者)が配送センターへ支払っている。

3-6 今後の改善点

【ドライバー】

- ・ ドライバーの労働時間以外の休憩時間を考慮するのが大切と考える。
- ・ 過去に比べてドライバーが不足しているので、トラックの台数が減り半分程度になっている。賃金を上げればドライバーは増えると考える。
- ・ 商品を多くトラックに積み込む場合はベタ積みになるが、ドライバーの作業効率を考えるパレット積みにした方が良い。
- ・ 基本的に商品の積み込み積み下ろしにはパレットを使うのが、作業時間の短縮になり、ドライバーの負担が少なくなる。
- ・ ドライバーは力仕事と長距離運転などで、高年齢層には難しく、40代ぐらいまでしかできないので、ドライバーの確保という観点からトラックからの搬入搬出作業は、パレット積みにすることが、ベタ積みよりはるかに時間短縮になり作業の効率化に良い。
- ・ 搬入搬出の時間や納品の巡回など、ドライバーとのコミュニケーションが大事で輸送時間などの効率化につながるのよい。
- ・ 商社などから入荷する輸入品は冷凍・冷蔵庫内で作業許可を持っていないドライバーは荷物に手を付けられないので、許可を持っている受入れ先の社員が荷下ろしを行っているのが実情であり、改善が求められる。
- ・ 店舗ごとに配送することを要求している量販店もあり、その配送荷物の振り分けは全体を請け負っている元受けドライバーが主に行っているため、バックアップ体制を構築する必要がある。
- ・ ドライバーは配送前の商品の振り分けに必要な時間をとられる。
- ・ 荷主、運送会社、倉庫業界などがデリバリーの効率化を進めるためにドライバー対策を検討する必要がある。ドライバーの人材が少なくなりひっ迫してからは遅い。
- ・ 組合は業務の効率化、改善策など努力はしているが、水産物の鮮度が優先される中で夜の業務は外せない。

【コスト】

- ・ 運賃の価格が下がらない状況が続くことが想定され、配送における効率化が求められる。
- ・ トラックは、往路で積み荷があっても復路で積みがなければコスト高になる。コスト負担を軽減するために何らかの策を講じる必要がある。
- ・ 混載は積載率の向上になるため、輸送費のコスト削減になる。
- ・ トラックはウィング車が望ましい(荷下ろしが早い)が、その分購入経費がかかる

(車体は 1000 万円以上するので使用する運送会社は限られてくる。)

- ・ 発泡スチロールの値段が高くなると水産物のコスト高にもつながるので問題である。

【市場内業務】

- ・ 仲卸は小口が多く、スピード感と配送などの融通を効かさないとニーズに応えられない。
- ・ 倉庫管理は手荷役が基本であり、以前の平積みから棚別に整理することにより商品の選別取り出しが格段に進展した。
- ・ 量販店などのニーズである少量多品種納品に応えるために、ピッキングリスト（顧客が発注した商品の種類・数量・保管場所などの情報が記載されたリスト）を作成するなど機能化を図る。
- ・ まぐろは木箱で出荷されることが多いが、それを保管しておく場所を確保することが必要。
(出荷された箱は出荷者のものが多い)
- ・ 消費市場のニーズ(少量多品種傾向)に応えるために、ピッキングリスト作成など機能化を図る。
- ・ 新しいシステムとしてボイスピッキング(紙を見て商品の振り分けを音声で処理する)を導入すべくグループ会社と組んで開発に取り組んでいる。
- ・ ボイスピッキングはプログラムの作り方次第であるが、利用することに関しては決して難しくないと考える。